

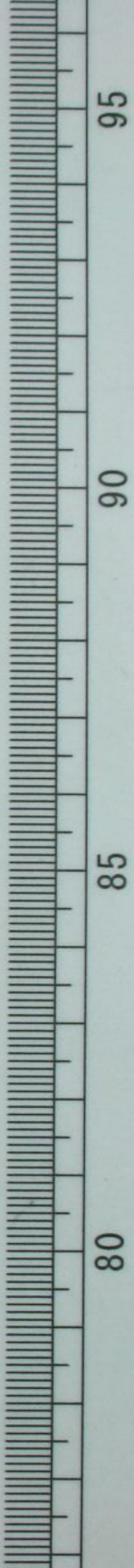


小町草子集記

二

~~D
1013
2~~

逍遙文庫
文庫6
982
2



新
研
东
日
記

三



万亭應賀作

上

文庫6
982
2

飯嶋
藏

重寶記

天齡此榮願得

吾立勲功願得

長生

安志平

此壽文ハ南極星

福祿壽の呪文也

毎夜これをして二べん

とるへく腹を極れバ

とる物長久ふ家

福ありとらる



御所奉公東日記三編序

夫惡人害賢者猶仰天而唾唾不汚天還汚已身内レバ時政の妻

牧の方稻毛重成の奸曲也豈本望の達を乞ふ天正直の頭を守

護まは阿波局の誠忠も環の局の實義のとも時あらば明なる

唯幾重小も哀愍の止むるハ御臺の上藤松嶋と義秀の心中

あり己小高聞不達ト婚姻の成べたを尼公の嫉妬小害られ

局貞節を推守りて自殺の後小侍女賤機と小忠義と尽ま

る小契約の男の為小辛苦小落る委まら后の巻ああらせや

のぞ御所及び奥向を勤仕の婦人此戒草小奉公の名をのりて

此外題あり設より

嘉永六丑歲春稿成
同 七寅初春發市



萬亭應賀識



北條式部丞泰時

相摸守

義時の嫡子也始めの

江間太郎頼時と

良臣也

祖父

時政父の義時母牧方の

邪悪と諫め北条九代の采此臣の

仁恵小依所後執権とて

和田左衛門尉義成皿

桓武太皇の後置杉下太郎義宗の嫡男浦一堂の

司の鎌倉草創の臣也三代の君小仕へ諸士の別黨

老女歌岡

御堂鎌倉小

御下りふつた

大納言

信清

老女阿波局の侍女鳴戸

維きより局の部屋ふつた且て

成人誠義ふより侍女の

上召つた且て局小

忠義を

東日巴三編



和田合戦の建保元

西元年

五月三日

討死す

時

六十七歳



御眼がよめて附ら

老人れども武藝をわび

詩歌の道小達一才智

深きと男也及ぶ

東日巴



三木佐次郎
兵衛の侍
京都の
本店より
雅さらち鎌倉
富士見小路の
出店由来りて
諸大名方の
用向に因
とれ松島の
侍女賤機と
縁結の
男多



頼家卿の召仕兵竹
羽林頼家卿伊豆
あての御座りて
られ御座りて
せよよの時政
小言をらるる
重忠の
一言の
助られ尼
御座の御側小
在りて君の生害の翌年姫君と産
をひるらるるの
白山次郎平重忠
鎮守府將軍長兼七代秩父郎武綱四代白山
庄司重能の男也天下無双の勇士とよ仁義を
まのりて諸臣を恵じ君子の國へ今も人の知る所
縮毛重成の絶言よる元久三年六月廿五日武易二辰川かへて

戦死
時小
四士歳



七十一冊



寛政日記三冊



Vertical columns of handwritten Japanese text at the top of the right page, likely a preface or introductory text.



Vertical columns of handwritten Japanese text at the bottom of the right page, continuing the narrative or commentary.

Vertical columns of handwritten Japanese text at the top of the left page, continuing the narrative or commentary.



Vertical columns of handwritten Japanese text at the bottom of the left page, continuing the narrative or commentary.



東日記
三編

一猛齋芳虎画

錦橋堂
壽祥

下



ついでにむすぶのりばふこすの
とびやむすぶのりばふこすの
むすぶのりばふこすの
むすぶのりばふこすの
むすぶのりばふこすの
むすぶのりばふこすの

まふ
あつち
あつち
あつち
あつち
あつち
あつち



△このころのころのころのころ
このころのころのころのころ
このころのころのころのころ
このころのころのころのころ
このころのころのころのころ
このころのころのころのころ



あつち
あつち
あつち
あつち
あつち
あつち

〇此は世間の人の心算をいふ
 ろうく心算の心算をいふ
 ろうく心算の心算をいふ
 ろうく心算の心算をいふ
 ろうく心算の心算をいふ
 ろうく心算の心算をいふ



〇此は世間の人の心算をいふ
 ろうく心算の心算をいふ
 ろうく心算の心算をいふ
 ろうく心算の心算をいふ
 ろうく心算の心算をいふ

〇此は世間の人の心算をいふ
 ろうく心算の心算をいふ
 ろうく心算の心算をいふ
 ろうく心算の心算をいふ

〇此は世間の人の心算をいふ
 ろうく心算の心算をいふ
 ろうく心算の心算をいふ
 ろうく心算の心算をいふ
 ろうく心算の心算をいふ
 ろうく心算の心算をいふ
 ろうく心算の心算をいふ
 ろうく心算の心算をいふ



〇此は世間の人の心算をいふ
 ろうく心算の心算をいふ
 ろうく心算の心算をいふ
 ろうく心算の心算をいふ

〇此は世間の人の心算をいふ
 ろうく心算の心算をいふ
 ろうく心算の心算をいふ
 ろうく心算の心算をいふ
 ろうく心算の心算をいふ
 ろうく心算の心算をいふ
 ろうく心算の心算をいふ

甲寅春錦橋堂新板

寐小便の大奇薬
 小児男女の一切を治す良方

白妙 一包代
 精製 卅二銅
 清浄 白妙

御薬 固齒散
 功一血の力を一に
 能。用ひ各のうをふくむ

庄
 地本 錦繪
 問屋 山田屋庄兵衛

蒲田文筆箱
 中本形 山東 茶
 全冊 京山 作

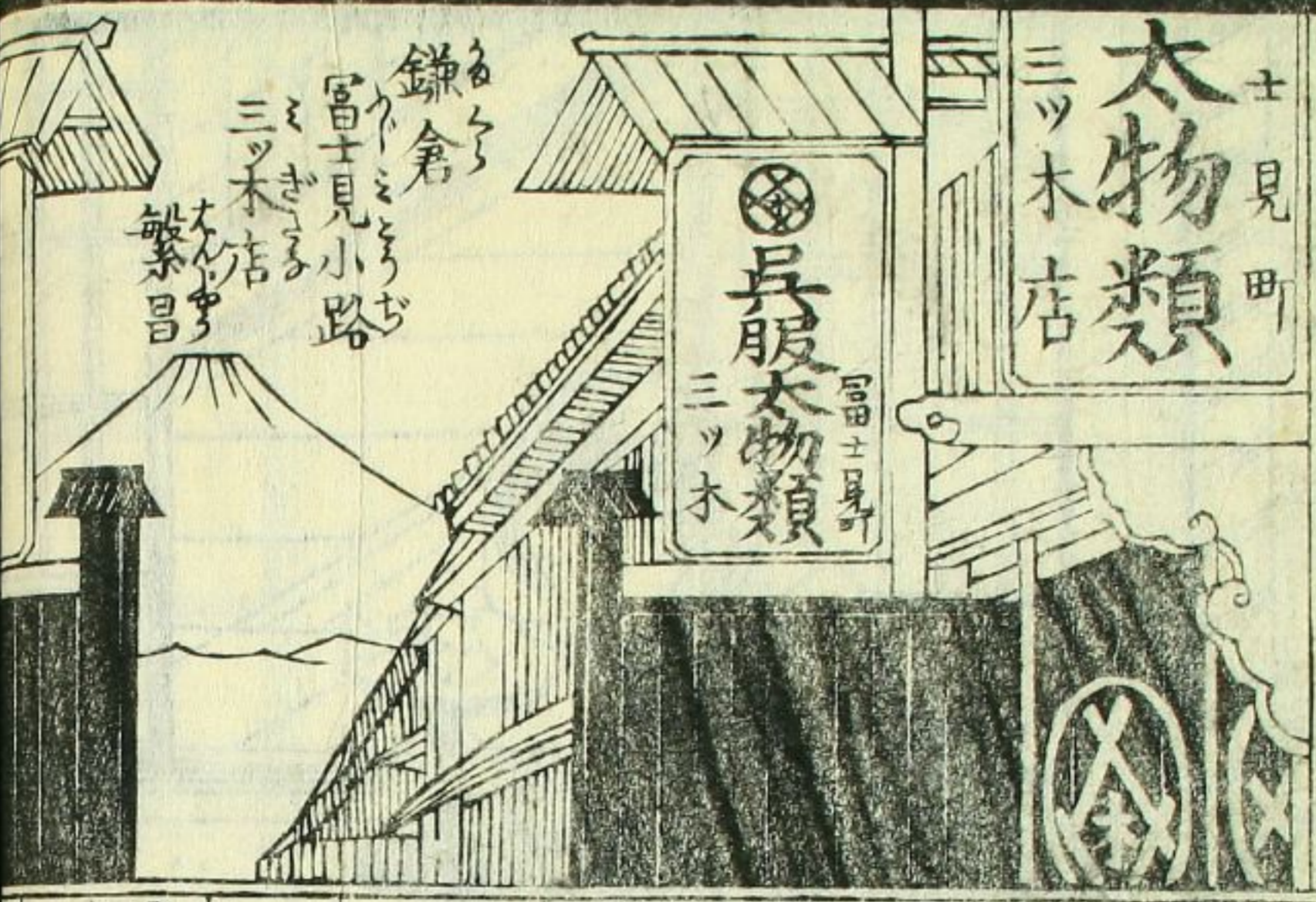
雛鶴権湯壽
 紅摺 山東 菴京山 作
 大本 一冊 陽齋豊國画

英雄五大力
 五編 万亭應賀作
 揃 一猛齋芳虎画

葛葉丸重錦
 五編 万亭應賀作
 揃 一陽齋豊國画

塵塚物語
 三編 山東菴京山 作
 揃 一陽齋豊國画

士見所
太物類
 三ッ木 店



火の用心

一猛齋芳虎画
 万亭應賀作

箱帳



火の用心
 火の用心の要るは
 火の用心の要るは
 火の用心の要るは



御
跡
吾
喜
以
就

四

才
記
海



飯嶋所藏

重寶紀

出火の屑の以ては方々

ありはるの終あり

大切の物

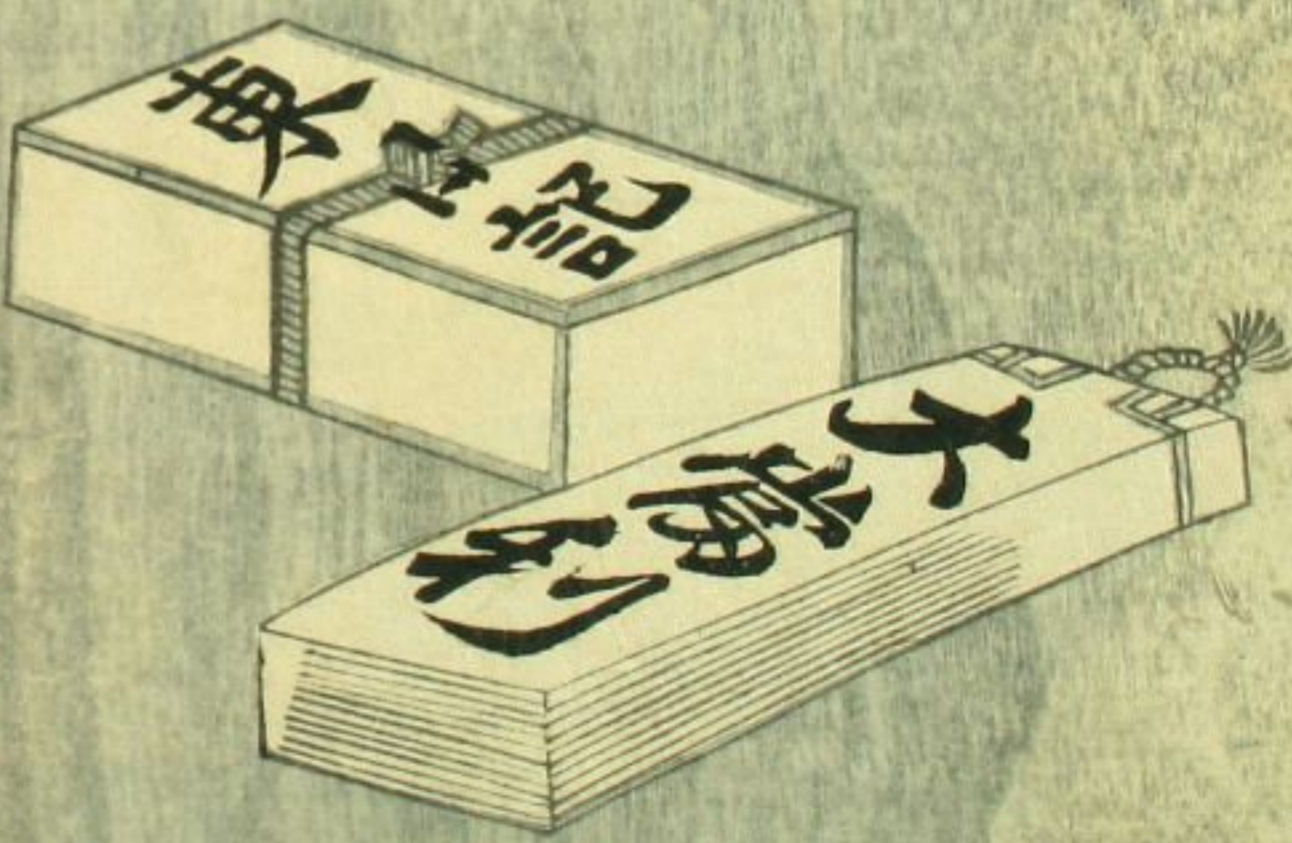
油新ある所ハ

舟との入所の

同様の物

助けての物

同様の物



御所奉公東日記四編序 正

夫相州鎌倉の昔鎌子の公鹿島參詣時此由比の里小宿り玉ひける夜

靈夢ふ任所持の鎌を今の大藏の松岡小埋玉あが故其郡名茲小弁

尤此地四神相應されば深屋時忠平將貞盛上總介直方源頼義皆

此地小住り就中頼朝卿ハ殊小當所ハ幡宮を信トて勸請の式敷祭

あり頼家實朝の二將を以て鎌倉の三代と云時小予彼地一覽小趣

昔の柳炊宮今に名木林々山野とあり權をたる臣家の跡ハ昔々たる田

畠とありて其名聊土民等の口碑小残り昔の春の風小吹を最肌寒

く先立ハ唯涙を無氣小見ら心ありね此小冊ハ時代を摸擬して時

り昔を著せども強ち是非を不可論

嘉永七甲寅年初春新刻

万亭應賀誌



東日記

三浦平六兵衛尉平義村

義村の義盛男從男

三浦大助

義明の末

鎌倉草創

の父



善哉君

義村の妻見崎夫人

尼御堂

の命

善哉

の

乳母とある親族の

義盛より度々教訓計

あしど終み義盛の雀言誠小當り

臣あり善哉君のてあ
つて義盛と不和とあり
一門の密計を
一且権と派
に從五位の下
駿河守に
余北余手の後
嫡子若狭守恭村
小至て父子兄弟五百
余法華堂にて自
害一悉滅亡此時
室治元年六月五日

北條相模守平義時

時政の息男尼御堂の

兄小當り

父の跡小

統ま

執権を

武藏守朝雅

京都の守護入六角堂

東の洞院小宿所あり妻ハ時政の

娘めて枝の方の毎々寵ふあり御堂所

御迎の節重保と争論あり後小

謀叛の張本小仍て鎌倉より

追討使を向られ采く滅亡及び

勤りて小御所の者あり後小
陸奥守小任む年



六十五歳

山久

元仁

元年

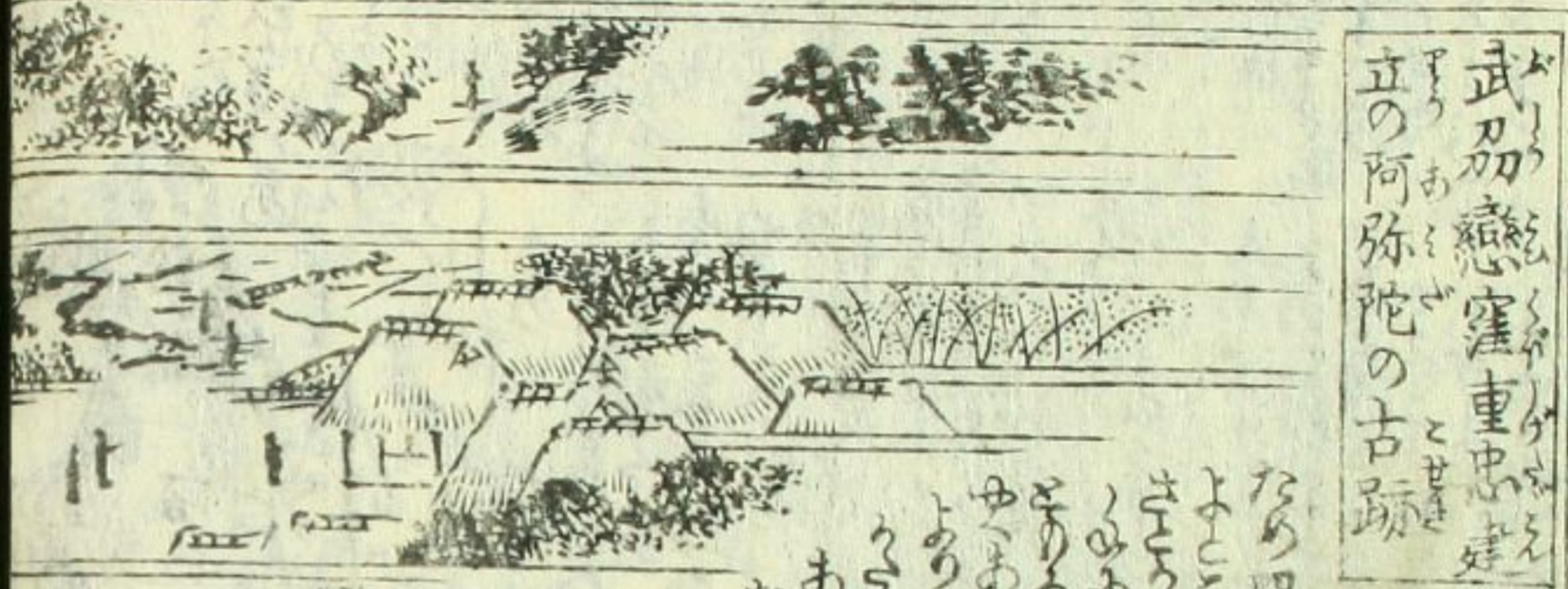
六月

卒

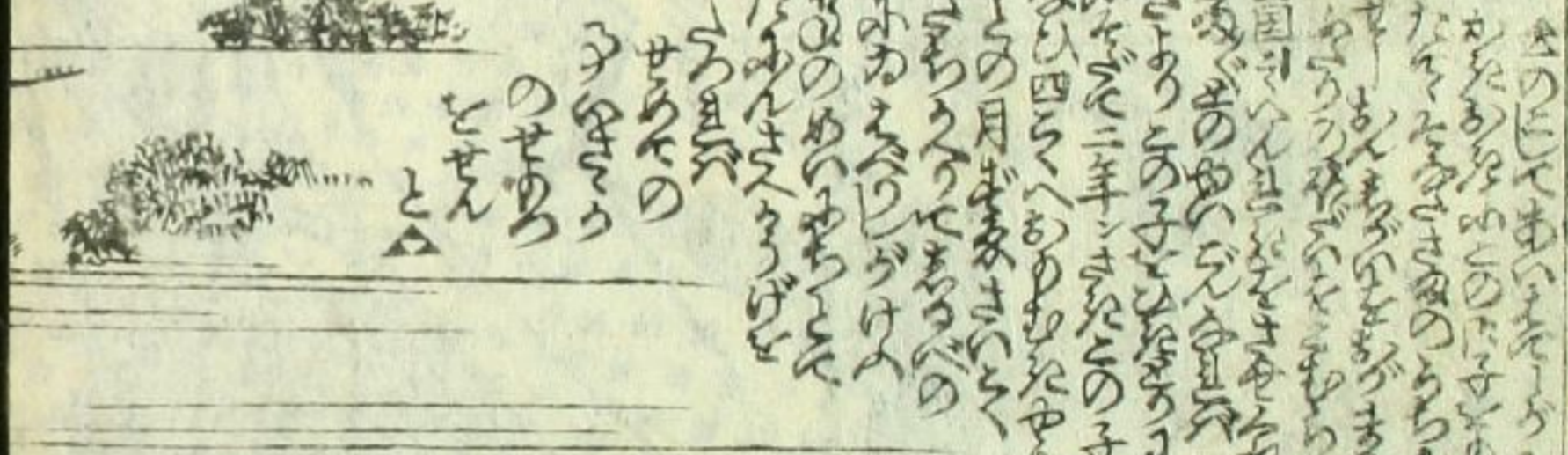




ついでにけいせいの谷
武刃戀窪重忠建
立の阿弥陀の古跡



武刃戀窪重忠建
立の阿弥陀の古跡



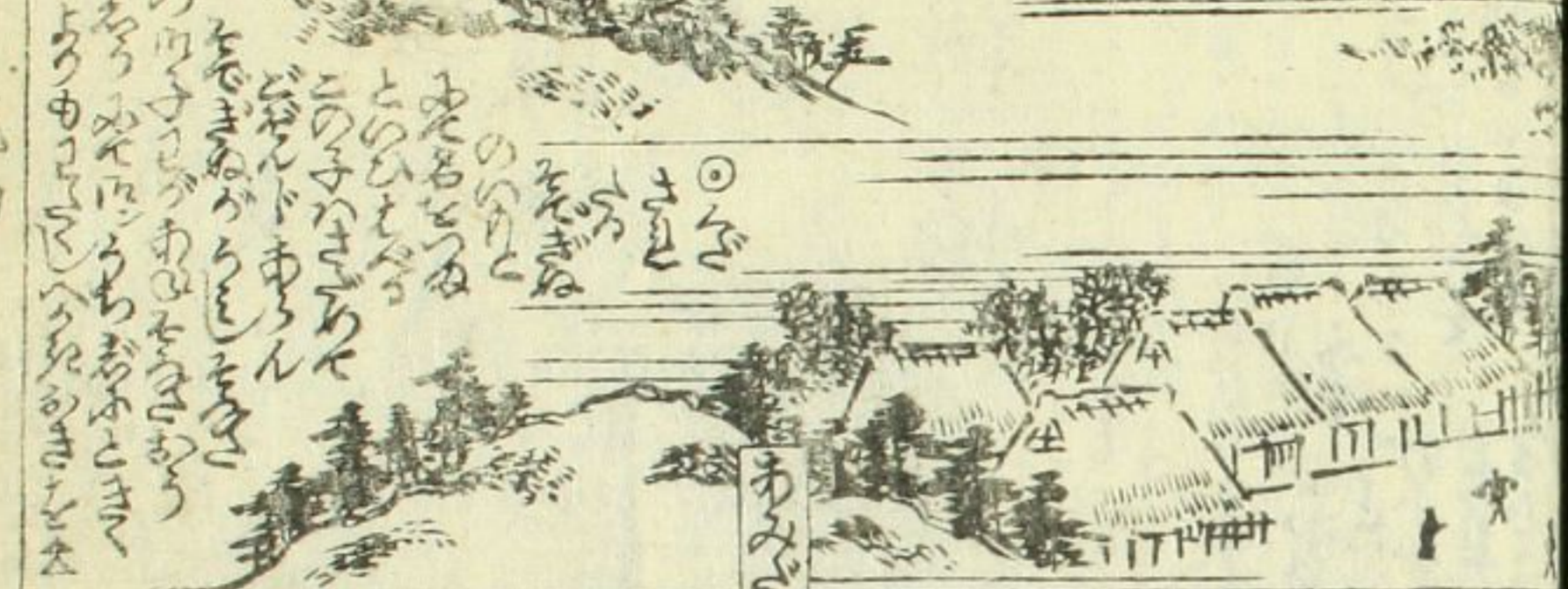
この江で...
なすの...
あつた...
さう...
の...
と...



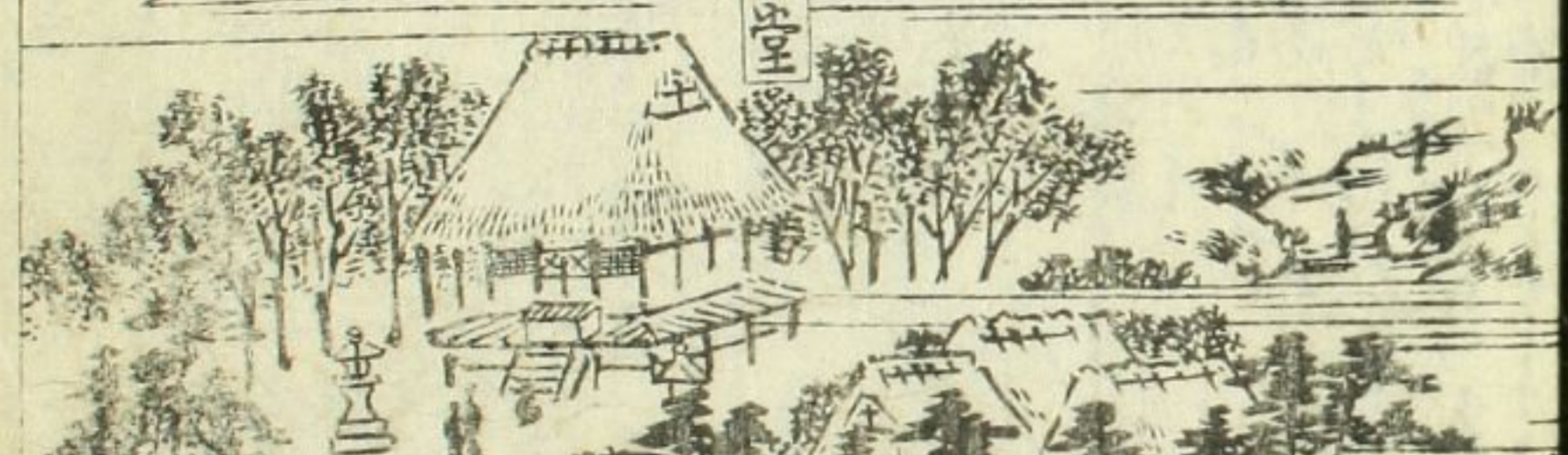
この江で...
なすの...
あつた...
さう...
の...
と...



ついでにけいせいの谷
武刃戀窪重忠建
立の阿弥陀の古跡



武刃戀窪重忠建
立の阿弥陀の古跡



この江で...
なすの...
あつた...
さう...
の...
と...



この江で...
なすの...
あつた...
さう...
の...
と...





つたはては...の...の...の...の...
...の...の...の...の...
...の...の...の...の...
...の...の...の...の...



應賀作 芳虎画

教
針女房形氣

十三編 糸山作
西編 五編 岡貞画

ぬき 徳妻中紙

五編 岡貞画

鷹城 忠摺

結鹿子紺屋小説

糸山作
一編 糸山画

造架樓最底

八編 梅彦作
十編 糸山画

浮橋島龍連

五編 花咲作
大尾 豊岡画

あひ日記

初編 糸山作
二編 三編 四編 五編 一編 猛齋 芳虎画

倉倉...
...の...の...の...
...の...の...の...
...の...の...の...
...の...の...の...
...の...の...の...
...の...の...の...
...の...の...の...

甲寅初春錦橋新堂板目録

品定五人娘

糸山作
五編 芳虎画

庄

錦繪 問屋 山田屋 庄兵衛

江戸中橋廣小路

一猛齋芳虎画



万亭應賀作

錦





たて母子げのつめをそのちあはらひ... 血あやせまのあはれそのあはれ... せんみちのあはれそのあはれ... 天をまはるあはれそのあはれ

此那夜迎はる... 悪魔のつらさ... 悪魔のつらさ... 悪魔のつらさ

東日巴四

あはれめつむのせのめ... あはれめつむのせのめ... あはれめつむのせのめ... あはれめつむのせのめ

重寶記

目低帝

屠蕪陀

阿若密陀

鳥都陀

具者陀

波賴帝陀

阿彌若陀

鳥都陀

狗羅帝陀

者摩陀

莎呵

此咒文ハ

北辰の大神咒

胡捺波末

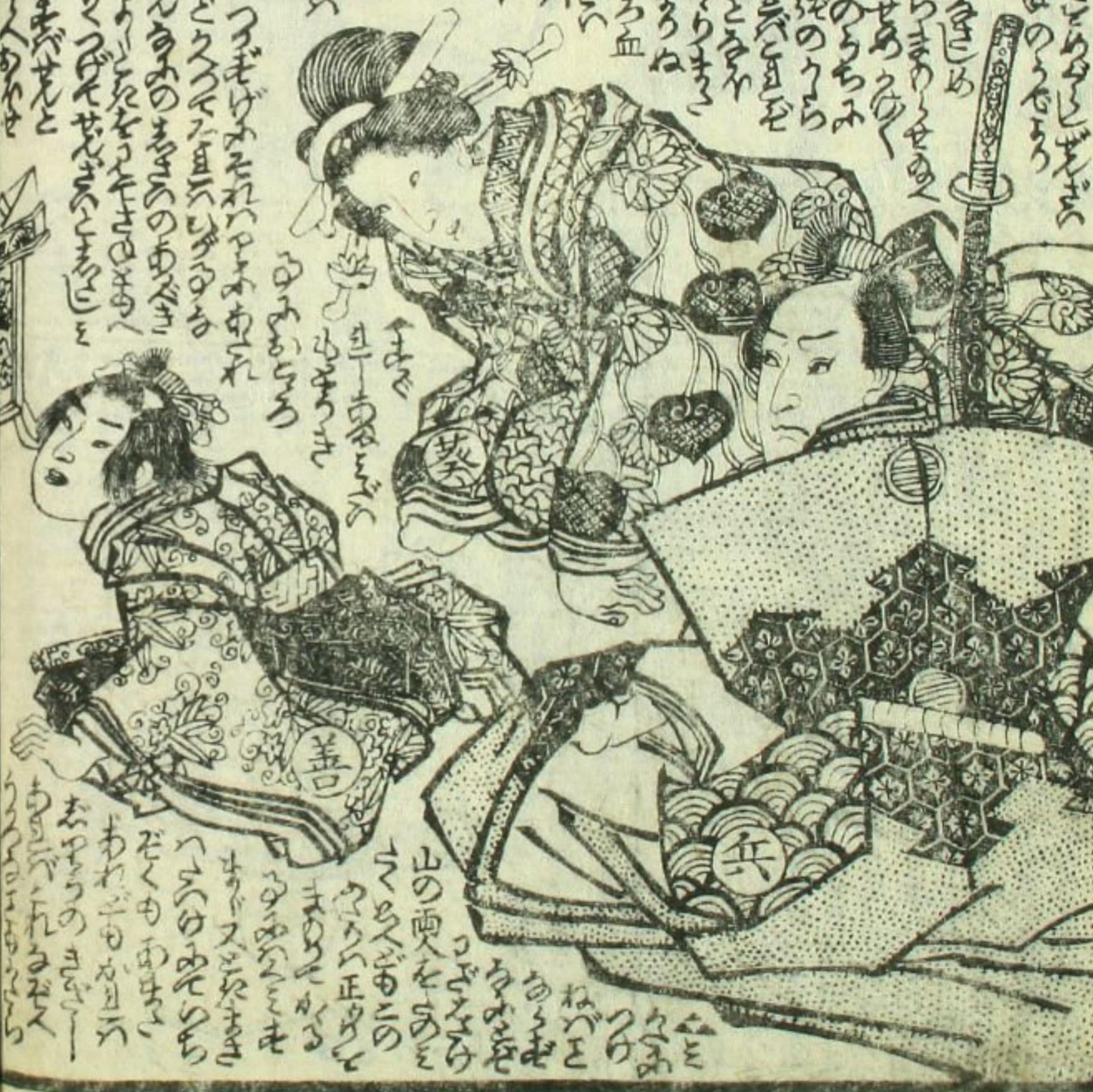
毎朝毎夜

念難盜難を



まねを唱へて... 念難盜難を

Handwritten text in a cursive script, likely a translation of a Japanese text, located at the top of the right page.



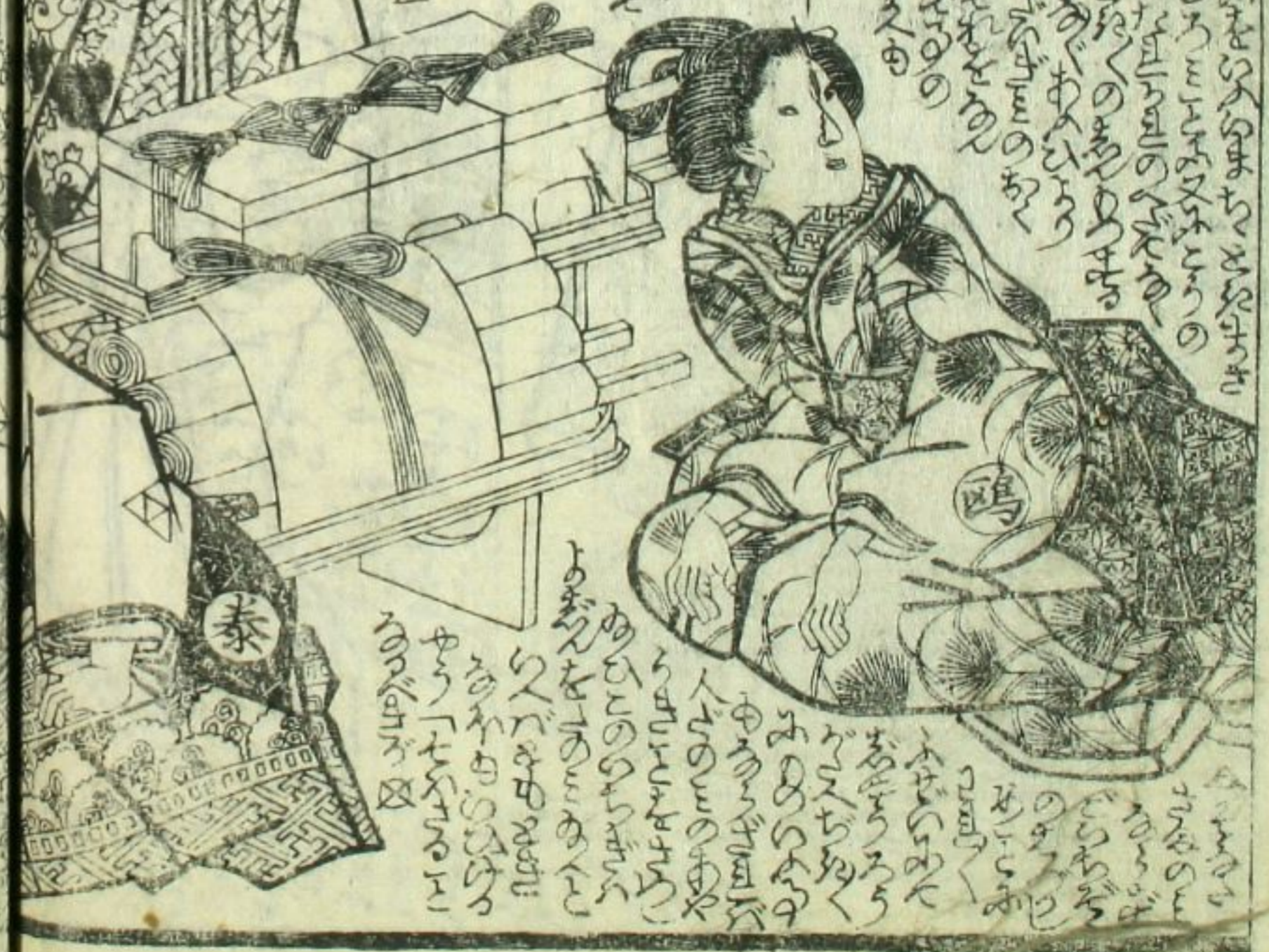
Handwritten text in a cursive script, likely a translation of a Japanese text, located at the bottom of the right page.

Handwritten text in a cursive script, likely a translation of a Japanese text, located at the top of the left page.



Handwritten text in a cursive script, likely a translation of a Japanese text, located at the bottom of the left page.

Main body of handwritten text on the right page, arranged in vertical columns. The text is written in a cursive style and appears to be a narrative or a collection of poems.

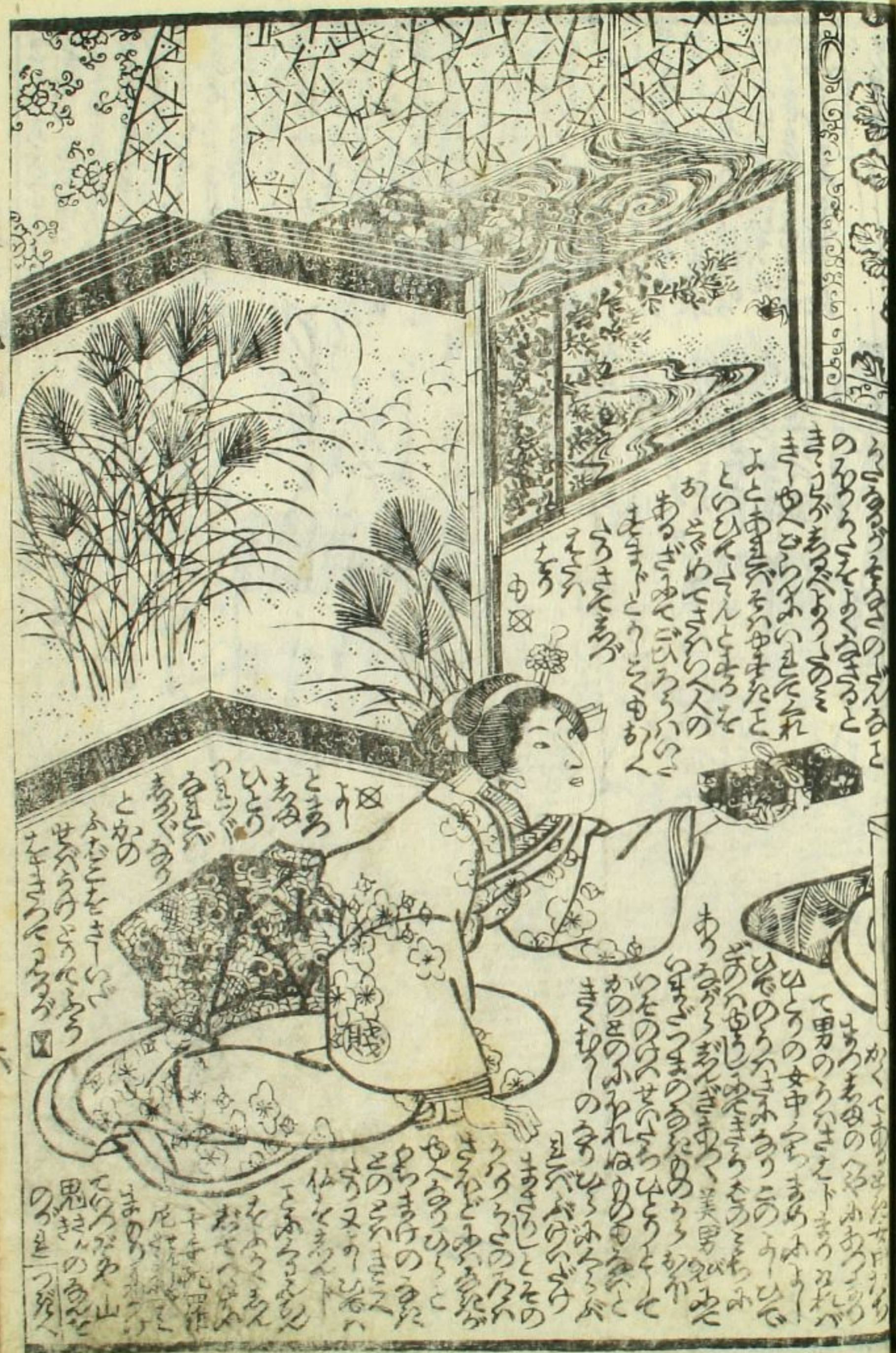


Main body of handwritten text on the left page, arranged in vertical columns. The text continues the narrative or collection of poems from the right page.

Text at the top of the left page, above the illustration of the man.



Text at the bottom of the left page, below the illustration of the man.





甲寅春錦橋堂新板

口中御藥 **固齧散** 大徳百銅
 功 一血の多る 一血の少る 一血の用ひ多るのうとあつたかゝるおぼし
 能 一血の多る 一血の少る 一血の用ひ多るのうとあつたかゝるおぼし
 精製 **白妙** 一包代 卅二銅
 注 清浄 ちんちん
 寐小便の天奇藥 百代
 小児女中の一色とて治る良方

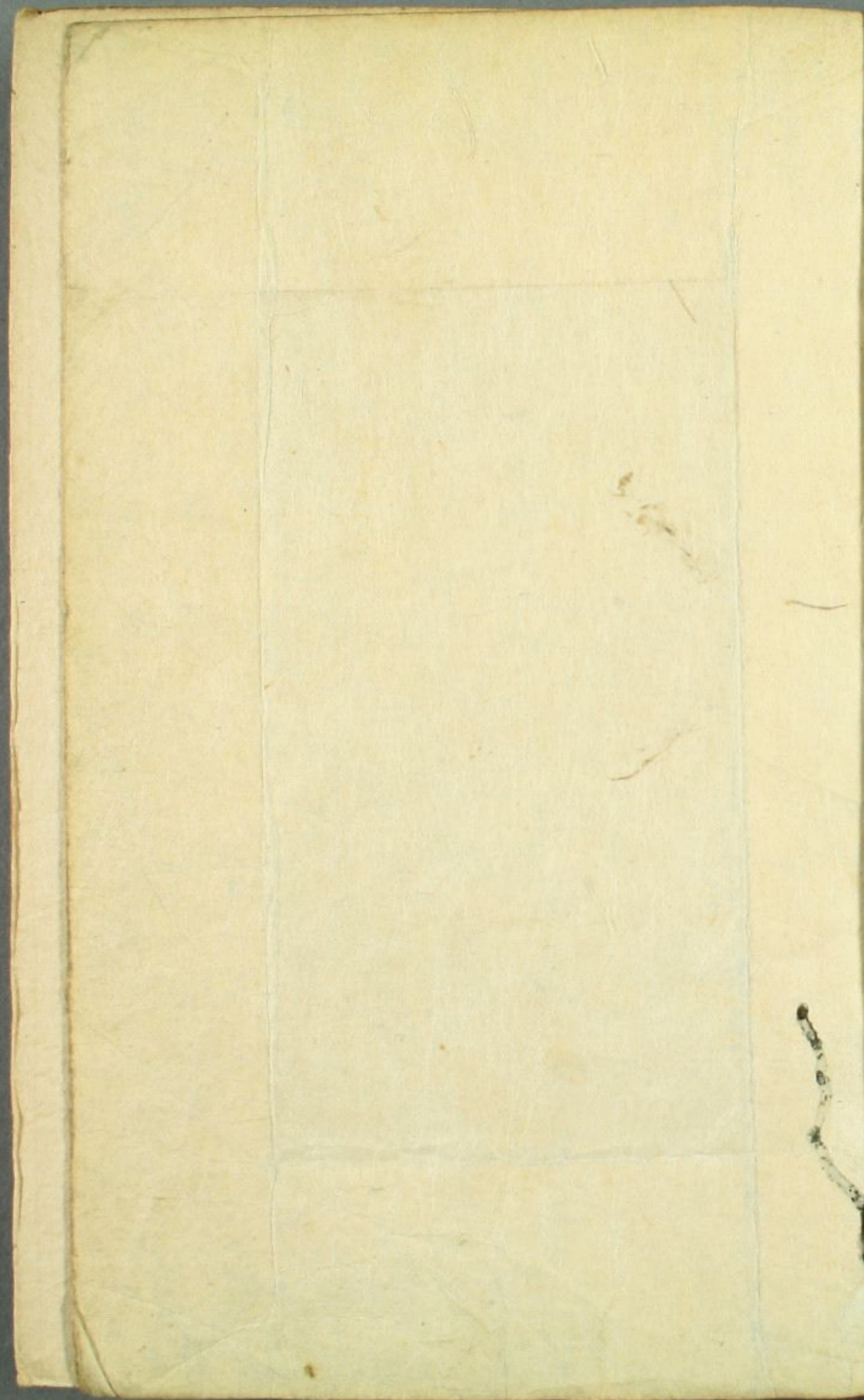


永七甲寅 正月吉日 祥日

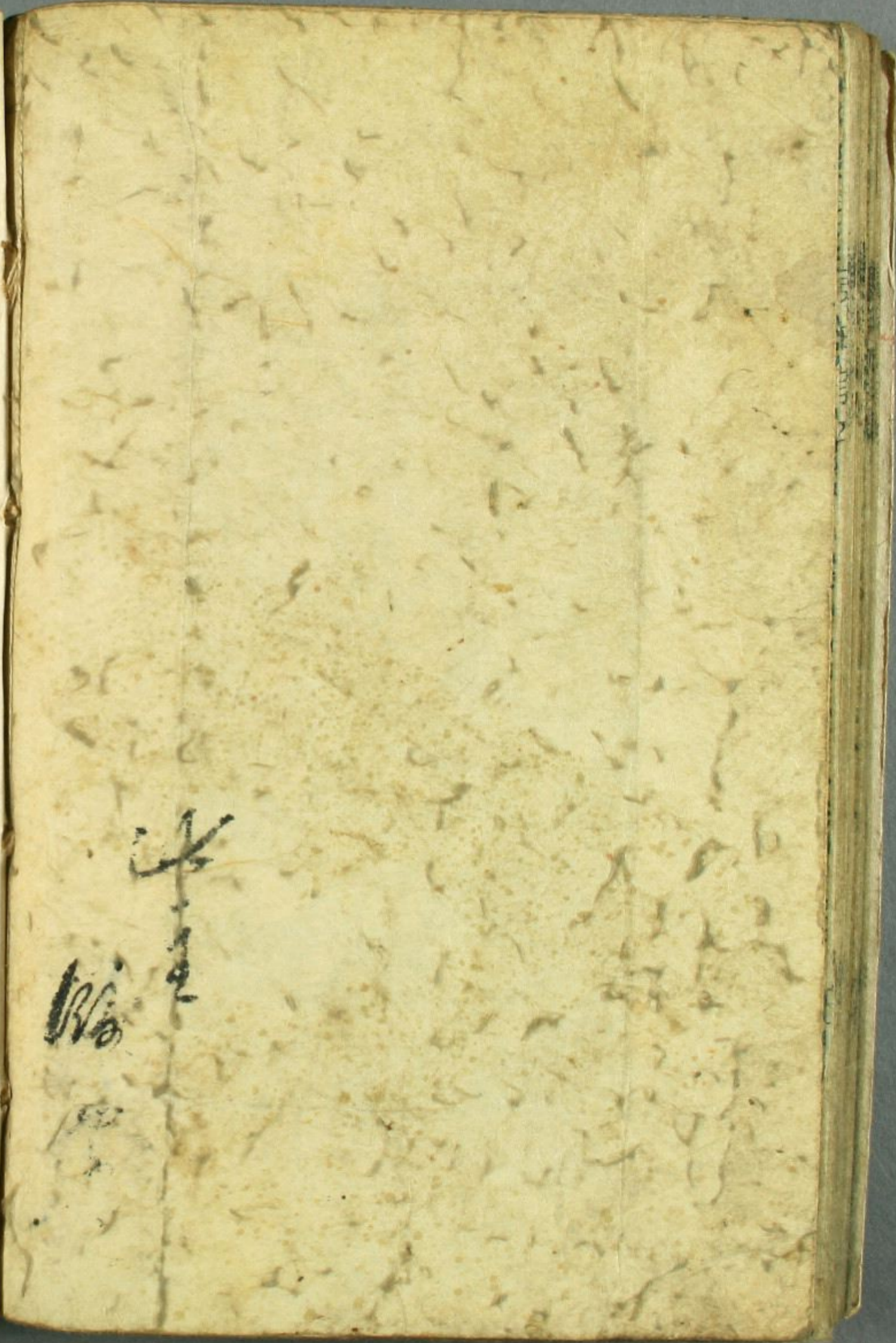
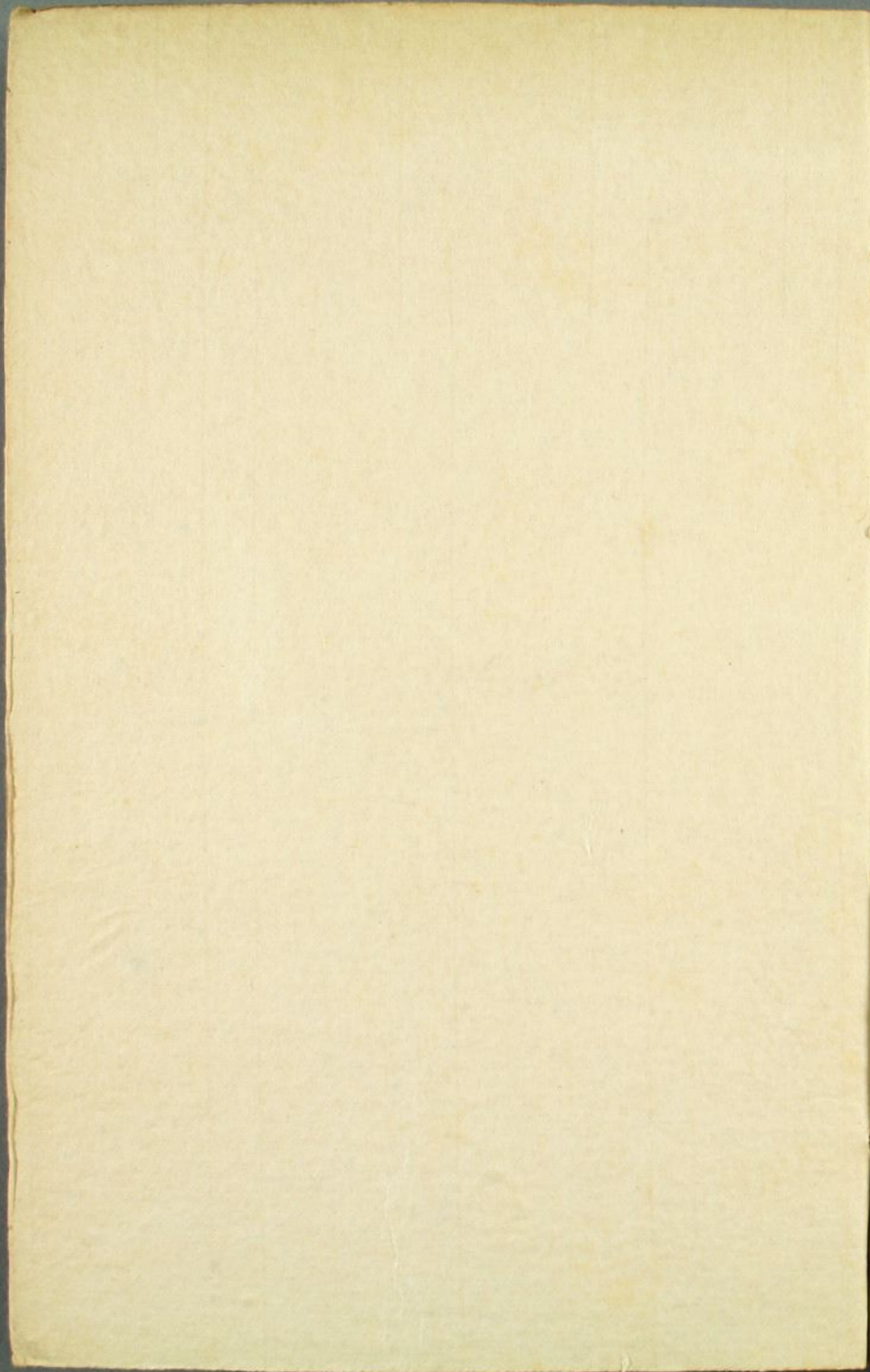
敬白

万亭應賀作 **一猛齋芳虎画**
 板元 錦橋堂呈敬白
 當年おろしおまらるる
 ありをんごまらるる
 めてしんご
 ちん元

塵塚物語 三編 山東 葛葉 京山 作
 一陽齋 豊國 画
葛葉丸重錦 五編 万亭 應賀 作
 一陽齋 豊國 画
英雄五大力 五編 万亭 應賀 作
 一猛齋 芳虎 画
雛鳥雀湯壽 紅摺 山東 葛葉 京山 作
 一冊 一陽齋 豊國 画
常用文集箱 全二冊 京山 作
庄 地本 錦繪 問屋 山田屋 庄兵衛
 江中橋 廣小路



111
112
113
114
115
116
117
118
119
120
121
122
123
124
125
126
127
128
129
130
131
132
133
134
135
136
137
138
139
140
141
142
143
144
145
146
147
148
149
150
151
152
153
154
155
156
157
158
159
160
161
162
163
164
165
166
167
168
169
170
171
172
173
174
175
176
177
178
179
180
181
182
183
184
185
186
187
188
189
190
191
192
193
194
195
196
197
198
199
200



Handwritten text in the lower-left corner of the right page, possibly a signature or initials.

早稲田大学図書館

011688991759